

令和2年度京都市職員採用ガイダンス（動画）
「市長の情熱トーク」 発言概要

みなさん、こんにちは。京都市長の 門川 大作 です。

本来なら、みなさんお一人お一人のお顔を拝見して、お話をしたいのですが、新型コロナウイルス感染防止のために、こんな形になりました。どうぞ、よろしくお願いします。

市長就任12年。就任早々、金融経済危機。100年に1度と言われました。大不況でした。さらに、新型インフルエンザ。そして、今年の新型コロナウイルス感染症。本当に、自然災害も含めて、災害等が続出しています。しかし、京都は、日本は、世界は、必ずこれを克服し、新たな未来を切り拓きます。その先頭に、みなさんと御一緒に、京都が立ちましよう。

例えば、京都の祇園祭は、自然災害と疫病、これを克服する。その願いから、民衆が、町衆が立ち上がって、始まったものであります。この新型コロナウイルス、これを克服して、より魅力的な京都を、日本を、未来をつくっていく。そんな心構えで、共々に頑張りたい。このように思います。

私は、徹底して、「現地現場主義」で仕事をしてきました。京都には、誇るべき都市特性がたくさんあります。しかし、私は、一番の京都の魅力は、「地域力」である、「文化力」である、そして、それらを支えていただいている市民の、人々の「市民力」である、「人間力」である。このように思います。実感しています。

そして、地域力や、市民の皆様の人間力、素晴らしい魅力を引き出して、より良い京都をつくっていく。これは市役所の職員一人ひとりの仕事であります。市役所の「職員力」、「チーム力」。チーム市役所の力であります。

国連が「SDGs」、「誰一人取り残さない」という柔軟な目標を決めました。すべての人に健康と福祉を、すべての人に質の高い教育を、環境問題と経済の発展をしっかりと一致させる。そうした取組であります。

日本経済新聞が、全国の自治体を74項目で調査して、京都市が「SDGs」の日本一という評価をいただきました。また、民間のシンクタンクが、都市の総合力、これを調査されて、2年連続、京都が1番という評価を得るに至りました。

これは、京都の市民の皆様、多くの皆様の「個人力」の賜物であります。この魅力を、さらに生かして、今、世界中が、日本が、貧困や格差、さらに環境破壊、地球温暖化、様々な課題があります。その課題を解決していく。京都は「課題解決先進都市」、これを目指していきたい。みんなで取り組んでいきたい。このように思います。

さて、みなさん。私は、京都市役所で働く職員に3つの目を持ってほしい、常々申しております。

一つは、「虫の目」であります。一人ひとりを徹底的に大切に。目の前の仕事を大事

にする。関わりのあるすべてのみなさんを大事にする。きめ細かく。「虫の目」であります。

もう一つは「鳥の目」。細かいことも大事ですけれども、大きく、大きく、大局的に見る。歴史の流れも、未来も展望して、しっかりと見つめていく。俯瞰して見ていく。「鳥の目」であります。

もう一つ、大事なものは「魚の目」であります。世の中が揺れ動き、京都でも、例えば若い人が、ソーシャルイノベーション、社会的な課題解決のために頑張ろう、そんな人が増えてきました。そうした新しい潮流、これは大事にして生かしていこう。同時に悪い潮流がある。ポピュリズムになってきていないか。今だけ良かったら良い。自分だけ良かったら良い。自己中心的な傾向にないか。そういう悪い流れは食い止めねばなりません。

この「魚の目」と「虫の目」と「鳥の目」。これをしっかりと持って、より良い社会をつくっていきましょう。

さて、文化庁が機能を強化して、京都に全面的に移転してきます。そんな時に、京都が先頭にたって、日本の、世界の、あらゆる課題を解決していく。京都が、「文化の都」、「課題解決先進都市」としての役割を果たしていきたい。みなさん、どうぞよろしくお願いします。

「日本に、京都があってよかった。」。「そうだ 京都、いこう。」。こういうフレーズを聞かれたことがあると思います。私は、こういうフレーズがみなさんに共感していただける。嬉しく思います。みなさんもぜひ、市役所で働いていただいて、いつの日か、“京都市役所に何々さんがおられてよかった”，そんな生き方を、仕事の仕方を、人生を全うされませんか。

あなたが人生を賭けて働くに価値のある、京都であります。私たちは、みなさんと御一緒に仕事ができる、そんな日をお待ちしています。どうぞ、京都にお越しく下さい。